

ISSN 1881-6053

秋田県健康環境センター年報

第 11 号

平成 27 年度

ANNUAL REPORT

OF

AKITA RESEARCH CENTER FOR PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No. 11 2015

秋田県健康環境センター

は し め に

秋田県健康環境センターは、保健衛生・環境行政を科学的・技術的に支援する試験研究機関として、旧衛生科学研究所と旧環境センターが統合した平成18年度から今まで、生活環境の保全と保健衛生の向上を目的に歩みを進めてまいりました。

当センターの運営に当たっては、「中長期計画」により定めた今後の方向性に沿って、「健康被害の防止」と「環境の保全」を基本方針として事業を推進しております。

行政等からの依頼検査については、感染症や食品衛生に関する細菌・ウイルス検査をはじめ、食品中の残留農薬検査、河川・湖沼、工場排水等の水質検査、放射能測定、大気・土壌・騒音測定等広範囲で多数の検査を実施しています。

調査研究については、地域の行政課題やニーズに直結したテーマを取り上げているほか、国の感染症研究所や医薬品食品衛生研究所の研究班、環境研究所との共同研究など全国的な取り組みにも参加しています。

県民への情報提供については、感染症発生動向調査の集計・解析を行う感染症情報センターの業務運営、空間放射線量を監視するモニタリングポストの設置、PM2.5等大気汚染物質の常時監視などによるデータを発信しているほか、分析等の技術指導や出前講座など健康予防や環境保全に関する啓発活動に努めています。

今年は、中南米で流行したジカ熱が新たな感染症として注目されるとともに、改正感染症法が4月1日に施行されたことを受け、情報・検体収集体制の強化や検査の信頼性の確保に向けた一層の取組が求められております。

当センターでは、県民の安全・安心の確保の視点から、地域や国境の枠を越えて発生する緊急事態に対しても迅速に調査・検査が実施できるよう、体制整備に努めております。

この年報は、主に平成27年度に当センターが行った調査研究や業務実績の概要についてとりまとめたものです。本書を通じてより多くの皆様に、当センターの活動に対するご理解とご関心を深めていただきますことを祈念しております。

平成28年12月

秋田県健康環境センター所長 塚 田 善 也

目 次

I 健康環境センターの概要

1. 沿 革	1
2. 庁舎の概要	1
3. 組 織	1
4. 職員名簿	2
5. 業務内容	3
6. 主要機器	4

II 業務実績

1. 試験検査実績	5
2. 研修・学会等	9
3. 研究業務実績	14

III 調査研究報告

・ 秋田県で分離された結核菌のイソニアジド及びピラジナミド耐性関連遺伝子と遺伝系統の解析	20
・ カンピロバクター Penner PCR 型別法の確立と有用性の検証	23
・ 雄物川流域におけるアカツツガムシ生息調査（2011 年～2014 年）	26
・ パンソルビン・トラップ法の実用段階における問題点の検討	37
・ 1,4-ジオキサン分解能を有する活性汚泥の分解能向上と保存の検討	52
・ 玉川上流部で実施した中和実証試験の結果の検討	57

IV 発表業績

1. 学会発表	63
2. 他誌掲載論文等	69

I 健康環境センターの概要

1. 沿革

年 月	事 項
明治35. 7	衛生試験所を秋田市牛島町に設立。
明治末期	庁舎を秋田市土手長町に移転。
昭和28. 1	衛生研究所に改称。
39. 4	衛生科学研究所に改称。
39. 6	庁舎を秋田市古川堀反町（現千秋明徳町）に新築移転。
45. 7	公害技術センターを秋田市茨島の工業試験場内に設立。
48. 7	庁舎を秋田市八橋に新築移転。
56. 4	環境技術センターに改称。
61. 8	庁舎を秋田市千秋久保田町に新築移転。
平成12. 4	環境センターに改称。 秋田市山王の県庁第二庁舎に総務班及び監視・情報班を置く。
14. 3	八橋分室敷地内にダイオキシン類分析棟を新築。
18. 4	衛生科学研究所と環境センターを組織統合し、健康環境センターとして発足。 千秋庁舎に企画管理室及び保健衛生部を、八橋庁舎に環境部を設置。
21. 4	八橋庁舎の環境部を千秋庁舎に移転し、庁舎を統合。保健衛生部の理化学部門と環境部の化学物質部門を統合した理化学班を環境・理化学部内に設置。組織を企画管理室、保健衛生部及び環境・理化学部とする。
22. 4	保健所の試験検査課を統合。保健衛生部の微生物班を細菌班とウイルス班に再編し、健康科学班を健康科学・管理班に名称変更。環境・理化学部を理化学部と環境保全部に再編。理化学部には、理化学班を再編した食品理化学班と環境理化学班を設置。環境保全部には環境調査班を名称変更した環境保全班を設置。
24. 4	企画管理室の総務・企画班を再編し、総務管理班と企画情報班を設置。保健衛生部の健康科学・管理班を廃止。理化学部の食品理化学班と環境理化学班を統合し、理化学班を設置。

2. 庁舎の概要

- 1) 所在地 秋田市千秋久保田町 6 番 6 号
 2) 敷 地 867.75 m²（建物建床面積）
 3) 建 物 鉄筋コンクリート造 5 階建 延床面積 4,553.52 m²

3. 組 織

組 織

所 長

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

企画管理室長				保健衛生部長				理化学部長		環境保全部長	
総務管理班		企画情報班		細菌班		ウイルス班		理化学班		環境保全班	
主幹	1	主任研究員	1	上席研究員	1	上席研究員	1	主任研究員	3	上席研究員	1
主査	2	専門員	1	主任研究員	2	主任研究員	3	専門員	1	主任研究員	2
技能主任	1	研究員	1	研究員	2	研究員	1	研究員	3	専門員	2
臨時職員	1			非常勤職員	1			技師	1	研究員	3
				臨時職員	1			非常勤職員	1	技師	2
										臨時職員	1
計	5	計	3	計	7	計	5	計	9	計	11

総職員数 45 名（正職員 36 名，専門員 4 名，非常勤職員 2 名，臨時職員 3 名）

4. 職員名簿

(平成28年4月1日現在)

	職	名	氏	名
	所	長	塚	田 善 也
企 画 管 理 室	室	長	齊	藤 志保子
	総務管理班	主 幹 (兼) 班 長	工	藤 正 博
		主 査	朝	倉 由佳理
		主 査	平	野 進
		技 能 主 任	国	安 力
	企画情報班	主任研究員(兼)班長	梶	谷 明 弘
		専 門 員	黒	丸 彰 徳
		研 究 員	佐	藤 由衣子
保 健 衛 生 部	部	長	鈴	木 忠 之
	細 菌 班	上席研究員(兼)班長	熊	谷 優 子
		主 任 研 究 員	高	橋 志 保
		主 任 研 究 員	今	野 貴 之
		研 究 員	檜	尾 拓 子
		研 究 員	鈴	木 純 恵
	ウイルス班	上席研究員(兼)班長	斎	藤 博 之
		主 任 研 究 員	秋	野 和 華 子
		主 任 研 究 員	佐	藤 寛 子
		主 任 研 究 員	藤	谷 陽 子
		研 究 員	柴	田 ちひろ
理 化 学 部	部	長	圓	子 隆 信
	理 化 学 班	主任研究員(兼)班長	小	林 貴 司
		主 任 研 究 員	中	村 淳 子
		主 任 研 究 員	村	山 力 則
		専 門 員	佐	藤 晴 美
		研 究 員	小	川 千 春
		研 究 員	今	野 禄 朗
		研 究 員	櫻	庭 香 織
		技 師	宇	賀 神 理 奈
環 境 保 全 部	部	長	大	渕 志 伸
	環境保全班	上席研究員(兼)班長	黒	沢 新
		主 任 研 究 員	清	水 匠
		主 任 研 究 員	松	渕 亜 希 子
		専 門 員	高	嶋 司
		専 門 員	大	友 久 利
		研 究 員	玉	田 将 文
		研 究 員	生	魚 利 治
		研 究 員	佐	藤 健
		技 師	伊	藤 悠 歩
		技 師	伊	藤 佑 歩

5. 業務内容

(平成28年4月1日現在)

企画管理室	総務管理班	・人事，服務 ・予算，決算 ・庁舎管理，庶務一般
	企画情報班	・研究の企画・評価・進行管理 ・センター中長期計画の進行管理 ・広報，研修 ・行政検査業務の管理 ・危機管理 ・精度管理
保健衛生部	細菌班	・感染症発生動向調査に伴う病原体検査業務 ・細菌感染症と食中毒の試験検査及び調査研究 ・薬剤耐性菌に関する調査研究 ・結核菌の分子疫学解析 ・医薬品等に関する検査 ・収去食品及び環境検体等に関する細菌検査 ・結核登録者情報調査 ・地方衛生研究所技術協議会レファレンスセンター業務 (カンピロバクター，百日咳・ジフテリア・ボツリヌス， 薬剤耐性菌)
	ウイルス班	・感染症発生動向調査に伴う病原体検査業務 ・ウイルス感染症と食中毒の試験検査及び調査研究 ・感染症流行予測調査（インフルエンザ・日本脳炎） ・つつが虫病の抗体検査及び調査研究 ・感染症情報センター業務
理化学部	理化学班	・食品中残留農薬に係る試験検査及び調査研究 ・食品放射能の測定 ・有害家庭用品試買検査 ・収去食品の理化学的検査 ・工場・事業場排水中の化学物質の検査 ・廃棄物関係行政検査 ・環境中の化学物質に関する調査研究
環境保全部	環境保全班	・公共用水域水質調査 ・工場・事業場排水基準検査 ・工場・事業場ばい煙排出基準検査 ・廃棄物関係行政検査 ・生活衛生関係検査 ・環境放射能の測定及び常時監視 ・大気汚染常時監視 ・航空機騒音調査 ・酸性雨調査 ・アスベスト環境調査 ・環境保全に関する調査研究

6. 主要機器

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

機 器 名	規 格
ガスクロマトグラフ	アジレント・テクノロジー 7890A (FID)
〃	アジレント・テクノロジー 7890A (FPD)
〃	アジレント・テクノロジー 6890N (μECD)
ガスクロマトグラフ質量分析計	島津 GCMS-QP2010 Ultra
〃	島津 GCMS-QP2010 Plus
〃	島津 QP5050A
〃	島津 QP5000
〃	アジレント・テクノロジー 6890N/5973N
ガスクロマトグラフタンデム型質量分析計	サーモフィッシャー TSQ QuantumGC
高速液体クロマトグラフ	日立製作所 D-7000
〃	日立製作所 L-7000
〃	日立製作所 L-7000 (GPC)
〃	日本ウォーターズ 2695
〃	アジレント・テクノロジー 1200 (DAD・FLD)
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	AB サイエックス API4000
イオンクロマトグラフ	日本ダイオネクス ICS-1100
〃	日本ダイオネクス DX-120
原子吸光分光光度計	バリアン・テクノロジーズ AA-280FS
ICP 発光分光分析装置	サーモフィッシャー iCAP 6300 Duo
ノルマルヘキサン自動抽出装置	ラボテック HX-1000-8
高速溶媒抽出装置	DIONEX 社 ASE-200 , ASE-300
オートアナライザー	ビーエルテック QuAAtro 2-HR
分離用超遠心機	日立工機 CP70MX
電子顕微鏡	日本電子 JEM-1010
Ge 半導体検出器付波高分析装置	セイコー EG&G GEM20P, MCA7
〃	セイコー EG&G GEM25-70, MCA7600
PCR プロダクト検出定量システム	アプライドバイオシステムズ ABI PRISM 7000
自動核酸精製装置	日本ロシュ・ダイアグノスティクス MagNA Pure LC2.0
モニタリングポスト	アロカ MAR-22
空間放射線量モニタリングシステム	東芝 SD22-T
低バックグラウンド放射能自動測定装置	アロカ LBC-4201B
大気汚染常時監視テレメータシステム	NEC 他
航空機騒音自動測定装置	リオン NA-37
全有機炭素分析装置	三菱化学アナリテック TOC-300V